

白石市の観光施策

安 齋 多実男

〔質問〕本年のポストデスティネーションキャンペーン、一昨年のプレDCを終えての本市の観光施策に対する問題とこれからの課題について伺う。

① DCを終えての、本市の今後の観光施策に重要な「ブランド」とは。また、継続のための次の「ブランド」と課題

について。

② DCを終えての観光客に接する、市民意識であるおもてなしの心の対応の問題と課題について。

③ 事業者、商店と観光施策の連携の問題と課題について。
④ 観光施策と地産地消について。

〔答弁〕①当市における観光施策の基本は、恵まれた歴史、そして文化、自然をいかに生かすかである。

現在、戦国武将ブームにより、白石城を中心とした片倉小十郎公関連の施設を訪れる人が多くなってきたおり、温麺についても、DCをきっかけに食べに訪れる方が多くなっている。

これも今日までに培ってきた歴史、風土が生んだものであり、その時々ニーズにこたえられるような観光施策を

展開していきたいと考えている。

② DCの開催により、おもてなしの心の重要性が市民の中に認識されてきたことは大きな成果だと思っている。

③ 白石城などを訪れた人を市内の中心商店街に誘導すべく城下町回遊ルートを整備し、また壽丸屋敷でのにぎわいを創出すべく取り組んでいる。

その結果、町なかを散策する観光客の数はふえてきていると感じており、それをい

に消費につなげていくかが今後の課題である。

④本市の一般的な特産品と言われるのがモロキュウリ、原木シイタケ、斎川の凍み豆腐、ころ柿、たる柿等である。

今後さらに地域ブランド品が誕生して、販路拡大につながるようにしていきたいと思っている。

「地域医療再生計画」について

沼 倉 昭 仁

〔質問〕宮城県の医師の偏在傾向を解消し、仙南医療圏の体制を強化するため、宮城県が「地域医療再生計画」を策定した。この「計画」は、今年6月の議会で示された「中核病院との関係は慎重に取り組まなければならない」との市長の「答弁」と大きな隔た

りがある内容である。
この「計画」策定の席で、市長は、仙南医療圏の将来ビジョンについてどのような提言をしたのか、その経緯・内容の詳しい説明を求める。

【その他の質問】

○「病院改革プランと一般会計負担」について

〔答弁〕公立刈田総合病院の改革プラン、再編・ネットワークに関して、複数の地方公共団体や地方公共団体と公的病院等の運営主体との間の調整等も必要となることから、今後、方向性や協議体制を検討することとして、平成25年度までの実現を目指すとしている。

宮城県が策定した計画を審議するため、宮城県医師会の伊東潤造会長を委員長として、東北大学病院の里見進院長を

副委員長とする宮城県地域医療推進委員会に2回出席している。

この委員会の委員は、東北大学医学部教授や県内の主な病院院長、薬剤師協会会長、看護協会会長など医療関係の方々が多かった。

医師不足、看護師不足など現在の医療関係者を取り巻く厳しい状況が論議される中、市町村から唯一出席した首長として住民目線での医療、住民が望んでいる医療に対して

どのように医療再生を図っていくべきかとの観点も必要であるとの意見を申し上げてきた。

また、この委員会では、県北地域の病院は、大崎、栗原、登米、気仙沼のように一つの市が市立病院とし支えているが、仙南地域では1市2町、または1市3町が支えている病院であることを踏まえて、公立刈田総合病院はこの範囲での事業を進めていきたい旨の発言をした。